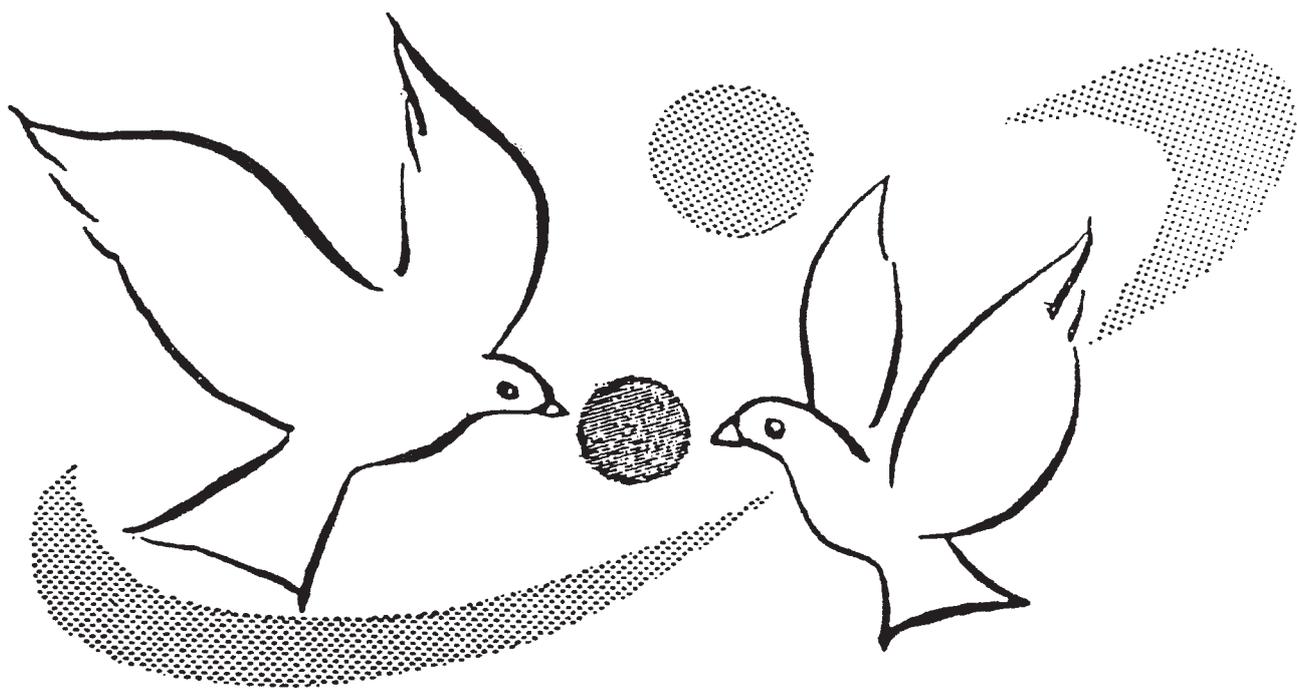


広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



—平成26年度—

(2014年度)

城 陽 市



市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城陽市歌

明るくのびのびと

作詞 龍村 孟雄
作曲 中原 都男

1. うめかあーる やまべにのべに ちやの
みどりほのか にも ゆーる もろ ひとのここ
ろーのすみか うつくしきわれらのまち
よ ひかりあれ ひかりあれ ひかり あ
れ じょうよう うつくしまち

2. 松あおき 鴻の巣山に
鳥啼きて 明るき陽ざし
こだまする 榎のひびきに
ひらけゆく われらのまちよ
栄あれ 栄あれ 栄あれ
城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに
黄金なす 稲穂のみのり
山の幸 野の幸さわに
ゆたかなる われらのまちよ
恵あれ 恵あれ 恵あれ
城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定

（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、
町歌を市歌とした）



城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

〔昭和47年（1972年）5月3日市制施行に
伴い町章を市章とした。〕

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

平成 26 年 7 月 31 日 (木)

城陽市役所集合

出発 (小学生 6 年生 27 名・中学生 8 名 合計 35 名)



昼食



平和記念資料館見学



資料館地下展示場・情報資料室見学



被爆者講話（細川浩史氏）



旅館 到着



入浴
夕食等

ミーティング



消 灯

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

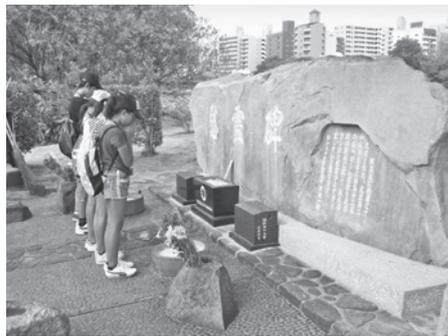
平成 26 年 8 月 1 日 (金)

旅館出発

↓
広島平和記念公園到着
原爆死没者慰霊碑



↓
広島二中原爆慰霊碑



↓
原爆の子の像



↓
(みんなで持ち寄った折鶴を捧げました)

原爆ドーム



爆心地



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



広島風お好み焼き体験（昼食）



広島市出発



城陽市役所帰着



解散



目次

広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	堀井爽平	1
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	谷口姫樺	2
原爆と戦争がうばうもの	青谷小学校	6年	蛭子野世空	3
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	中嶋百咲	4
広島県の戦争について	青谷小学校	6年	大川紫桜	5
広島に行つて	青谷小学校	6年	小山春花	6
生きている生きられることを大切に	青谷小学校	6年	西山愛華	7
広島平和派遣団に参加して	富野小学校	6年	高木理央	8
広島で学んだ事	久世小学校	6年	山本宏樹	9
平和のための小中学生広島派遣団に参加して	久津川小学校	6年	浅井啓太	10
広島への願い	寺田西小学校	6年	橋本果歩	11
広島から教わつた事	寺田西小学校	6年	田中綾乃	12
原爆は	寺田西小学校	6年	小河原宏美	13
広島に行つて学んだこと	寺田西小学校	6年	小原萌	14
日本は何もしていないのに：	寺田西小学校	6年	近藤 柁	15
広島派遣団に参加して	寺田南小学校	6年	上地里奈	16
戦争について学んで	深谷小学校	6年	小谷頼也	17

広島へ行って学んだこと

深谷小学校 6年 大矢 紗羽 18

広島派遣団に参加して

古川小学校 6年 澤田 理沙 19

広島派遣団に行つて

古川小学校 6年 瀧口 凜 20

原爆のおそろしさ

古川小学校 6年 瀧口 華 21

広島に行つて

古川小学校 6年 中石 望愛 22

広島派遣団に参加して

古川小学校 6年 齊藤 愛華 23

戦争のおそろしさを知つて学んだこと

古川小学校 6年 山元 沙耶香 24

広島に行つて：

古川小学校 6年 中西 凜花 25

広島派遣団に入つて

古川小学校 6年 吉川 和泉 26

原爆

古川小学校 6年 谷川 楓 27

平和の大切さ

南城陽中学校 1年 鬼村 歩 28

広島派遣団に参加して

南城陽中学校 1年 大西 茉那 29

戦争について

南城陽中学校 1年 小南 ゆ乃 30

広島で学んだ事

東城陽中学校 1年 大森 咲季 31

広島派遣団に参加して

東城陽中学校 1年 井ノ内 菜央 32

原爆・核兵器の恐ろしさ

東城陽中学校 1年 吉村 まりな 33

戦争が奪うもの

東城陽中学校 3年 梅原 大那 34

広島で学んだ事

東城陽中学校 3年 増子 博一 35

広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

堀井 爽平

ぼくが広島派遣団に参加したのは、以前に兄が行ったので
すすめてくれました。五時間かけて広島へ到着しました。

最初に見学したのが平和記念資料館でした。そこには、八
時十五分にとまった時計や焼けた三輪車がありました。印象
に残ったのが被爆後の人間のもけいです。皮はドロドロにめ
くれ骨まで見え、だれかに助けを求めるように手をさしのべ
ていました。原爆というのは、ここまで人をおいつめるもの
なのかと思いました。すべて原爆の爆発や爆風、放射能によ
る被害を受けた人達のものです。見ていて耐えられなくなり
ました。でも、

「今はなぜ建物や木がたくさんあつてきれいな広島に変わ
れたのだろう…」

それは、被爆者の声や広島の人達の活動によって、ここま
で復興して美しく、広島を変えることができたと思います。
その後、見学したのが、資料館の地下展示場でした。展示場
では原爆の絵がかべいっばいにかざられています。その奥に
は、原爆のことについて書いてある本が並んでいました。そ
の本を読んでみると、戦争や原爆はなんて悲惨なものなんだ
ろうと強く思いました。被爆者の人達は、家族を殺されて
今、どんな思いで生きているのだろうとすごく悲しくなりま

した。その被爆者の方に話を聞きました。その方は十七才の
とき、原爆で十一才の妹を亡くしていました。聞いた話では、
広島の人達はみんな戦争におくられ、ろくに食べ物もなく、
日本は戦争に負けつづけていました。被爆後は建物や住たく
はボロボロになり焼けこげて、ガラスはわれ、人にたたきつ
けられました。病院も爆風をうけて器具や薬品も使えなくな
り、病院としての役目を果たせなかつたそうです。放射能の
せいで不明な病気にかかり亡くなつていった人もいたそう
です。これだけの災難で、二十万二千人人という多くの人々が
亡くなつたんだと考えると、原爆というのはとてつもなく恐
ろしい物だと感じました。

次の日は、平和記念公園で原爆や戦争で亡くなつた人達の
慰霊碑にみんなで広島を願う花をささげました。また、
原爆の子の像を見に行きました。前日、旅館で一人一人の思
いをのせた折り鶴を束ね、ささげました。そして、原爆ド
ームを見学しました。もとは広島県産業奨励館という建物でし
た。くらべてみると、まったくちがうのが分かります。原爆
というものがどれほど恐ろしい物か、改めて思いました。

この広島派遣団に参加して、広島の人達の原爆や戦争についてい
ろいろと学んだが、やっぱり争いとは人の命をうばうだけの
ものだと思います。この事を心にきざんで、大人になつても
自分の広島にたいする思いを忘れず、これからの人生を歩ん
でいきたいです。

広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

谷口 姫 樺

私がこの派遣団を知ったのは、学校にポスターがはってあったからです。それで私のお母さんに行ってみたらと言われ、それで行ってみようかなと思いい、この派遣団に参加しました。行きのバスで知らない学校の人もお友達にすぐなれました。

最初に私たちが向かった場所は、平和記念資料館です。私は、戦争のおそろしさというのが分かりませんでした。でも、資料館で8時15分で止まった時計や「水をくれ」と書いたおき物、けがにあった人たちの写真などがいっぱいおいてありました。他にもロウ人形や、黒こげになったお弁当などがいっぱいおいてありました。その後、旅館に行つてごはんを食べ、ミーティングをしてねました。

2日目は、広島平和記念公園に行きました。お花をささげ、記念写真を撮りました。その後、私たちが折つてきたつるをささげました。次に爆心地に行きました。爆心地のあとかたもなく、きれいになっていました。次に原爆ドームに行きました。すごく大きかったです。次にお昼ごはんを食べました。お昼ごはんは、「広島焼」でした。おいしかったです。私が広島を見て思ったことは、平和な世界がいいということです。



原爆と戦争がうばうもの



青谷小学校 6年

蛭子野 世空

私は、学校で、広島派遣団の事を知りました。それまでは、原爆や戦争のことを全然知りませんでした。私がこの二日間で学んだ事の中で、心の中に残った三つの事と、広島焼き、旅館の事をお伝えします。

一つ目は、平和資料館です。

平和資料館の中には、戦争後の写真や、広島の子や女の子のせい服がありました。原爆で、顔をやけどした人の写真や、皮ふがめくれながら走っている親子を再現した人形なんかは、悲さんなものでした。

二つ目は、つるをささげたことです。

広島派遣団がささげたつるの他にも、学校からのつるもありました。折り紙で折ったつるで、平和ポスターを作ったのがかざってあって、

「これはすごいな。」

と、感心しました。

三つ目は、原爆ドームです。

私は、原爆ドームを見る事を一番楽しみにしていました。広島派遣団に参加する前に、

「二度、見てみたい。」

と思っていたからです。私が思っていた原爆ドームより大き

くて、ビックリしました。

二日目のお昼ご飯に、広島焼きを食べました。私のおばあちゃんは、お好み焼き屋さんですが、おばあちゃんのお店に行く時、いつもお好み焼きを食べています。ですから、広島焼きを食べたことがあります。広島派遣団に参加して初めて食べた広島焼きは、とてもおいしかったです。さらに、自分で作った事なんてなかったので、とても良かったです。

旅館でも、いい思い出が来ました。もちろん、料理も良かったです。まさか、焼きが出てくるなんて、思ってもいませんでした。とてもごうかだなあと思いい、食べるのがもったいないなと思いました。

最後に、広島派遣団に参加して、学べた事がたくさんあり、とても勉強になりました。広島県は、城陽市から遠いけど、「また行ってみたい。」

と思いました。戦争を体験した人の話からも、勉強になることがたくさんありました。原爆や戦争はおそろしくて、人から幸せをうばいます。世界中から戦争がなくなつてほしいのはもちろん、人から幸せをうばつてほしくありません。



広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

中嶋 百咲

私は、今回広島派遣団に参加しました。友達に誘われて、原爆のことについて学べるいい機会、たと思いましたが。行くまでは、原爆のことを聞いたことがあっても、どういうものだったのか全然わかりませんでした。でも、行ってみると、たくさんの方がわかりました。まずわかったことは、広島に投下された原子爆弾の恐ろしさです。原子爆弾は強烈な熱線と放射線を放射し、周囲の空気が膨張し超高压の爆風となることがわかりました。そして、その強烈な熱線と爆風は爆心地から、二キロメートル以内にあったほとんどの建物を破壊し、焼きつくしたこともわかりました。放射線によって亡くなっている方や病気になった人もたくさんいると思うので、原子爆弾はとても怖いものだと思います。そしてもう絶対に戦争は、してはいけないことだと思いました。資料館の周りの景色は、木もたくさん植えられてとてもきれいな所でした。原爆が投下されて六十九年たつてビルや大きな建てもたくさん建てられていて、原爆が落とされていない、と言ってもおかしくないくらいでした。資料館では、原爆ドームの模型や被爆までの広島市の模型、白壁に残った黒い雨の跡、三輪車など当時のものがたくさん残って展示されています。八時十五分で止まった時計とか、そのまま残さ

れているものはすごく貴重なもので、今でも残っていることはすごいことだと思います。

被爆体験者の講話では、男の人たちは戦場に行つて農業などする人がいなくなつたので、女性や子どもは授業もなく働いていた、おいしいものも食べられないと言っていました。原子爆弾はなんの前ぶれもなく投下されて、忘れられない所です。原爆ドームは、上のドーム型になっているところが全部焼けこげていて、すごかったです。爆心地の周りはとてもきれいにされていました。

私は今の日本は、戦争もなく、平和なのでこれからもずっと平和だつたらいいなと思います。

広島での原爆を実際体験された方のお話は、とても貴重です。来年で七十年の月日がたち、語り部が少なくなつてきているので、私も家族や友達に伝えていきたいです。



広島県の戦争について



青谷小学校 6年

大川 紫 桜

私は、最初友達から気味が悪いと聞いたのでちよつとこわそうだなあと思っていました。それでちよつといやな気分になっていたが、いざ行ってみると楽しかったです。

最初に行った所は、平和記念資料館で音声ガイドを耳につけて入りました。それをつけて入ると、それはなぜこういうのがあるのか、なぜ亡くなったのか、説明を受けながら見学ができました。一番かわいそうだと思ったのは、三輪車でしただ。小さい子どもが三輪車で遊んでいる時に、そこにちよつと上から原爆が落ちてきて亡くなりました。それが一番かわいそうでした。全員かわいそうだけど、その見学した中では、三輪車が一番心に残っています。小さい子どもだからかわいそうです。次に行った所は、資料館地下展示場です。そこにあつた絵は上手でした。次に被爆体験者の話を聞きました。その人の名前は細川さんでした。話を聞くだけでおそろしかったです。旅館に着いたら、先にお風呂に入つてご飯を食べました。夜ご飯は、ごうかですごかったです。それで部屋でちよつとおかしを食べてから、ミーティングに必要な物を用意して、その前にふとんをひいてたからそこでゴロゴロしてました。ミーティングに行つてつるを班行動の人とつなげて、班ごとに願いを書いて前へ出しました。その後、ほかの

部屋の人としゃべつて時間になったら、自分達の部屋でテレビを見ながらおかしを食べていました。楽しかったです。ふとんをひいていたけど、枕を北の方向にしてねたらダメだから、「どこどこ」って聞いて、北の方向が分かったから、そつちにならないよう、ねながらしゃべっていました。それが終わつたらねました。それで朝5時30分に起きました。朝ご飯はしゃけでした。おいしかったです。それが終わつたら、忘れ物がないか確かめました。確かめた後は、集合してバスに乗つて原爆の時に亡くなった人のおまいりをしてから、お好み焼体験をしに行きました。自分で作るのは、初体験でした。楽しかったです。ひっくり返すのは、こわかつたから無理と思つていたけど、意外とできました。それを食べたならバスに乗つて帰りました。私はもう二度と戦争をしてほしくないと思いました。



広島に行つて



青谷小学校 6年

小山春花

わたしは初めてのいんしょうでは、広島はこわいというイメージでした。でもバスで高速道路を下りると、69年前に原子爆弾が落とされたようには見えない町なみが広がっていました。たくさんのお木が立っていたり、高いビルが立ちならんでいました。しかも人もたくさんいて車ごおりもとても多かったです。行きのバスの中、バスガイドさんに、はだしのゲンや、さだ子ちゃんの話なども聞きました。その話をしている時、バスは広島の中を走っていました。その町なみを見ながら、その話を聞いていました。町なみを見ながらだと、すごく話の世界に入っていました。そうすると、なぜか周りの風景が昔の広島のように思えてきました。そして、資料館に見学に行きました。その資料館には戦争の恐ろしさ、原爆のこわさをものごたるような写真、もけい、絵、その時のお弁当、自転車、8時15分だとまった時計などがありました。その資料館には、アメリカの人が資料館に見学に来ていました。アメリカの人はその日本人が苦しんでいるのを見てどういう気持ちで見ているんだろうと思いました。わたしは思うには、

「なんでこんなことを、うちの国はしてしまったんだろう...。」

と思っていると思います。でもそのように思わない人もいると思います。でも1人でも多くの人にそう思ってもらいたいです。そう思ってもらうために資料館というのにはできたと思います。1日目の夜、みんなでおかしを食べながらしゃべって楽しくすごしていて、今から思うと、そういうふうにしていられることもしあわせだなあと思いました。2日目は、原爆が落ちた所に行きました。そこには、内科の病院がありました。そこに昔落ちたという様には、見えませんでした。そしてそこから原爆ドームまで歩きました。そうすると思っていたよりも、とても近かったです。なのにこんなに建物の形が残っているなんてとても奇跡だと思います。でもわたしには原爆ドームはみんなに

「戦争はおそろしいものだからそれを伝えていくんだぞ」と言ってる様に思えてきました。そのために、原爆ドームがなくなると原爆が落下されても残っておこうと思っていたと思います。わたしには、そのように思えてきました。わたしは広島に行つて、あらためて、

「戦争はよくない、一度とやっつけてほしくない」と思いました。なのでわたしはこれから、学校の友達、家族などにもそういうことを城陽市代表としてどんどん伝えていきたいです。



生きている生きられることを大切に



青谷小学校 6年

西山 愛華

私は、広島のこと原爆が投下されたところ、ぐらいいしか分かっていませんでした。

広島に原子爆弾が落ちてから六十九年目。今の社会からは、考えられないようなおそろしい出来事があったのだなと知り、びっくりしました。原爆ドームをはじめ、原爆の子の像、核兵器の恐ろしさを改めて知りました。

平和記念資料館では、放射能で黒くなった雨、それにかかってよごれた服やお弁当箱、ツメと皮ふなど、いろいろな遺品があり、見るだけで怖かったです。最初、なぜ、広島に原爆を落とそうと決めたのか、不思議でたまりませんでした。これらのことから世界の平和を願いたいなと思いました。

平和記念公園で、原爆の子の像を見ました。つるをささげました。佐々木禎子さんの話を図書館で見たのを思い出して、白血病は怖いなと思いました。私は、病気などの方たちを守る人の一人になってみたいなと思いました。

原爆ドームは、もっと大きい物を想像していたけれど、意外と小さくてびっくりしました。最初は、原爆ドームって、何だったんだろうと思っていました。三回の工事をしていくって書いてあったけれど、六十九年前の出来事を原爆ドーム一つで、実感できる感じがしました。

原爆死没者慰霊碑では、派遣団みんなできくの花を供えました。原爆犠牲者の人数を聞いておどろきました。

私は、爆弾が爆発したときの熱風の温度にもおどろいた。六千度といえ、お風呂のお湯の温度の約百五十倍だからです。皮ふもとけて、大火傷するのも、六千度だったらあたりまえみたいな感じがするけど、私はありません。

私が世界に伝えたいこと、「世界が平和であること。」「核兵器がなくなること。」です。被爆した人は、被爆のえいきよで、後から病気が発生したりすることがあります。もう、絶対六十九年前のようなことは、起こってほしくない。起きてほしくないです。そして、私は、こうやって平和に生きている一日一日を大切にしていきたいなと思いました。まだまだ、広島のこと分かってないかもしれないけれど、こうやって生きている、生きられることを大切にしたいです。



広島平和派遣団に参加して



富野小学校 6年

高木理央

私は、以前にテレビで「はだしのゲン」を見たことがあるので、原子爆弾のこわさを少しは知っていました。やはり映像とはちがいます。平和記念資料館に行つて、ぞつとしました。普通、爆弾という物は、落ちた場所のある程度のはん囲にだけ被害をあたえる物ですが、この爆弾は広島町をまるごとのみこんでしまったと聞いて、とてもおそろしい物だと思いました。

資料館で印象に残つた物は、「はがれた手の皮とつめ」、「焼けただれた三輪車」です。ここでは書き切れないほど多くのおそろしい物がありました。肉と皮が落ちそうなのでを前に出している人形。思わず目をそむけそうになりました。そして、とてもおどろいたのは、瓦が泡状になっていた事です。瓦が溶けるなんて、どんなに熱かつたのだろう。その熱で焼かれて、皮ふが黒くこげてただれた人々の写真。見ていられないほど痛々しく、とてもこわかつたのですが、しっかりと目に焼きつけました。

次に細川さんの被爆者講話を聞きました。十七才で被爆したそうです。妹さんが亡くなつたと聞いて、とてもかわいそうだと思いました。男の人が戦場へ行つてしまうと、働く人がいなくて、とても大変だと分かりました。戦争中は食料も

少なく、勉強がしたくてもできない。ピカドンの後の町はまるで地ごくのような光景だったのだろうと思いました。血のあとが残つた手すりに、まどガラスが全て割れた病院。周りから「あつい、助けてくれ」と言う声が聞こえていたが、助ける力もない。「水をくれ」と言われても、水もあげられない。飲まずと死んでしまうから、だそうです。でも、あげなくても死んでしまい、あげれば良かったと、後悔する気持ちがとてもよく分かりました。

次の日は、原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、そして原爆ドームへ行きました。原爆死没者慰霊碑を見て、ここに多くの人々が眠っているんだなと思いました。原爆の子の像では、平和を願う子どもの夢が込められているように感じました。そして、ドームは今でも、残っているほどの立派な建物ですが、たつた一発の爆弾でレンガの建物が骨のようになるなんて、あらためて、原爆はこわいと思いました。

今回の広島平和派遣団に参加して、原爆は本当におそろしい物だと分かりました。しかし、一番悲しく、おそろしいものは、戦争そのものだと思います。戦争は人の命と平和をうばいます。家族もはなればなれにされます。そして、広島のような悲げが起ります。だから、二度と戦争をしてはいけないと思いました。

広島で学んだ事



久世小学校 6年

山本 宏樹

ぼくは、最初に、はだしのゲンを読んでいたの、原爆のことを知って行きました。

資料館に行つて、8時15分にとまった時計や、米が炭のようになった弁当箱など、一しゅんにして、もやされたことが、見てすぐわかりました。原爆ドームなどが残っていることが、きせきだと思いました。

原爆ドームを最初見たときは、原爆ドームのこわさがわからなかったです。そのあとに、資料館で、レンズがとれためがねや、かぶと、三輪車、かわらなどが、一しゅんで、姿がかわっていることがわかりました。かわらが、爆風と熱さで2〜3枚が、くっついていることがわかりました。かわらが、一しゅんでやわらかくなり、風でいつきについていることが見てわかりました。

コーラなどが入っている形のびんが、ふとい所がへっこんでいて、ピンク色のつぶがありました。さわってみると、かなりへっこんでいることがわかりました。ピンク色の点のつぶは、とてもかたいけど、でこぼこしていました。

その資料館から、原爆ドームを見ると、最初見たときは、ちよつとちがいました。

そのあとに、原爆をけいけんした人に話を聞きました。話

を聞いていたら、なぜ、たすかったか、不思議に感じました。話を聞いてみると、建物の柱が光をうけてくれてたすかったといっていました。

平和の子の像で、みんな折つて、あつめたつるをささげました。その近くに原爆ドームが見えたので写真を撮りました。

原爆の光をあびた子が、病気とたたかっていた子が、千羽作つて、願いをかいたら、願いが叶うといわれてたから、がんばったという話がある。

このことを学んで、「この世には、争いをしていいるから、争いがなくなることを」をみんながのぞんでいると思う。



平和のための 小中学生広島派遣団に参加して



久津川小学校 6年

浅井 啓太

六十九年前の8月6日に人類にとってあつてはならない事がおこったと思います。

原子爆弾が爆発したしゅん間に約十四万人が死んだと言われている、広島の人口の約5分の2が死ぬぐらいおそろしい兵器を人類がつくつたのです。

平和のための小中学生広島派遣団に参加して、一番印象に残っているのが、平和記念資料館に展示されているミサイルや爆弾を所持している国々と本数を表わした地球ぎです。アメリカやロシアは大量に、北朝鮮は？発と書いていました。アメリカやロシア・北朝鮮、他の国々には原爆が落とされてなくて、原爆の悲さんさやおそろしさが分かってないと思います。

原爆が落とされたのは日本だけで、日本がもつと戦争をおこさないようにしよう和世界活動したらいいと思います。

二番目に印象に残ったのが、被爆前と被爆後の広島の様子でした。コンクリート造りの建物と原爆ドームや民家が細かく表現されていました。被爆後の広島の様子を見ると、一目で民家がないのが分かりました。

残っていたのは、原爆ドームと病院と郵便局だけでした。

しかも、その三つはどれも今にもつぶれそうな感じでした。たった一つの爆弾でここまで悲さんな事になると考えると、核兵器のはい絶が一番だと考えました。

三つ目は語りべさんのお話でした。

中学生になれば、戦場へ行くか、軍事工場で働かされると言うことです。

勉強もせずに、子どもが働かされたりすると人手もたらずに、生活がどんどん苦しくなっていくという事でした。

ぼくは、戦争について武器を持たず核兵器も持たない、平和で安心してくらせる世の中であつてほしいと思つています。

平和のための小中学生広島派遣団はすごく勉強になりました。弟もいけるように続けてください。



広島への願い



寺田西小学校 6年

橋本 果歩

私は原爆のことは何も知りませんでした。けれども、広島派遣団に参加し、原爆についてたくさんを知ることができました。

まず最初に平和記念資料館に行きました。資料館には、被爆資料や被爆者の遺品などが展示されていました。八時十五分で止まった時計やボロボロの服やくつなどがありました。そんな物がある中で一番印象に残っているのは、被爆直後の親子の模型です。皮膚がたれさがつていて、かみの毛はボサボサで、見るのが怖かったです。他に見ていると、写真で着物の柄が皮膚に焼きついた女性や背中や腕がケロイドになった女性が見られました。私は、何も悪くない人々にこんなことをするのはもう二度としてほしくないとい心から思いました。

被爆体験者の方のお話も聞きました。語り部さんは、被爆した時の様子を教えてくださいました。戦争とは命の大切さを忘れ、たくさん命をうばってしまうものだと感じました。だから、原子爆弾や核兵器のない世界へなっしてほしいと思いました。

二日目は、広島平和記念公園に行きました。最初に、原爆死没者慰霊碑へ行き、花をささげました。私は「この世界が

平和になりますように」と願いました。次に、さだこさんの像の所に行き、みんなで折ったつるをささげました。ポツクスの中にはたくさんつるがありました。つるは全国各地の人々からささげられていました。

いろんな所を見ている中で、やはり一番印象的だったのが「原爆ドーム」です。ガラスは一枚もなく、爆心地から百六十メートルしかはなれていません。少しさわればくずれそうでした。追悼平和祈念館では、パソコンで当時の人の写真や動画を見ました。お腹の中に赤ちゃんがいるお母さんは、死んでしまい私は赤ちゃんは生まれることすらできなかったんだと思うと、胸が痛くなりました。

広島に行って、戦争の恐ろしさ、命の大切さが、分かりました。私たちは、戦争のない時代に生まれて来たので「平和」についてあまり感じなかったのですが、改めて、今の日本は「平和」なんだということを感じることができたと思います。もう二度と戦争が起らない世の中になるために、私たちが原爆の恐ろしさを伝えていきたいと思っています。



広島から教わった事



寺田西小学校 6年

田中綾乃

数年前「はだしのゲン」を読もうと思って本を手に取りました。しかし内容が「怖いな」と思って、すぐに読むのをやめました。でも戦争について知っておいた方が良いと思っていました。だから「平和のための広島派遣団」として城陽市から広島へ行きました。

バスから降りたら、セミが鳴いていました。原子爆弾がこの広島に落ちたとは思えないほど「都会」でした。ビルが建ち並び、路面電車が走っていました。

まず「平和記念資料館」に行きました。ここでは「原爆ドームや爆心地を示す地図の模型」「手作りの布製のグローブ」「八時十五分で止まったうで時計」などたくさん展示物がありません。その中で、一番心に残ったのは「ろう人形」です。米軍機B-29から落とされた原子爆弾によって、約三千度から約四千度の熱線と爆風や放射線を受け、やけどをおった人々のろう人形などがありました。

でも、これが戦争のあった時の本当の広島姿なのです。ありのままの事実を受け止めないといけないと思いました。次に、細川さんというおじさんの被爆体験の話聞きましました。

細川さんの妹は、爆心地から約一キロメートルの所で戦争

のための作業をしていて亡くなりました。細川さんは、ビルの中に居て柱にかくれていたので助かりました。病院に行く途中に「助けて」「水をくれ」と声をかけられましたが、助けてあげられなかったことを、六十九年たった今でも、悔やんで生きておられます。

このような講話を聞いているだけで、核兵器や原子爆弾は人々にやけどをさせたり、放射線を浴びせたりする被害を及ぼすので、大変恐ろしいものだと思います。

城陽に帰って来て、こんな新聞を見ました。

「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳（尊けておごそか）及び権利（物事を自由に行うことのできる資格）について平等である」と書かれていました。

世界ではまだ戦争が起こっています。「世界人権宣言」が守られていないと思います。世界中の人たち全員が戦争をなくそうとしたり、戦争をするのではなくみんなで話し合うという考えを持つと、今も未来も守れると思います。



原爆は



寺田西小学校 6年

小河原 宏美

私は、7月31日と8月1日に「平和のための小中学生広島派遣団」として広島へ行つて来ました。行つた理由は、2つあって、1つは友達にさわられたからで、もう1つは原爆のことをなんとなく知りたくなったからです。友達といっしょに行きたかったので、申しこみが多ければ抽選だったので、しんぱいしていました。すると、友達のお母さんから、私のお母さんへのメールが届き、「ふうとうきたよ。」と書いてありました。私は、「あれ、私の所にも来てたっけ。」と思ひ、お母さんに聞いてみると、「なんかふうとうあつた気がする。」と言われて見てみると、それは広島派遣団へ行ける、という内容だったので、すぐにメールで「うちもきてた」と伝えてもらいました。

そして広島へ行く日がやって来ました。朝の行くときは、お母さんもお父さんも仕事だったので、友達のお父さんに送ってもらいました。そして市役所に着いて注意点やいろいろなことを聞いて、バスにのりこみました。となりにすわつた子と仲良くなつて、のつてからはじめの方はずつとしゃべつていたけど、と中からねてしまいました。すると、ねているうちに、すぐに広島へ着きました。

はじめに平和記念資料館へ行きました。そこには、黒こげ

になった弁当箱や服などが展示してあり、さらに8時15分で止まった時計などそこにあつたのは、残こくなものばかりでした。

次に平和記念資料館地下展示場に行きました。そこには、いろいろな絵がありました。その絵はすべてひさんな絵でした。

続いて被爆者の講話を聞きました。話をしてくださつた人は助かりましたが、妹さんは被爆し亡くなられたというのを聞いた時は、すごくむねが痛みました。

2日目は原爆の子の像に行きました。原爆の子の像は、2才の時に被爆し12才で白血病で入院し、つるを千羽折れば病気が治るといふのにきぼうをもち、折り続けたけれど、あと少しのところまで亡くなつてしまつた佐々木禎子さんという女の子の死をきっかけに、禎子さんの友達が支援を求め建設された像です。そこに、みんなで作つた千羽づるをささげました。そこにはいっばい千羽づるがあり、いろいろな人が被爆者のことを思つてくれているのだなあと思いました。

次に原爆ドームと爆心地に行きました。原爆ドームはもとの建物とはまったくちがつていて、すごくぼろぼろになつていて、原爆はやつぱりおそろしいと思ひました。

そして爆心地は病院になつていました。この近くでたくさんの方が亡くなつたと考えると、ぞつとしました。

次は追悼平和祈念館へ行き、体験記を読むと、やつぱり原爆は、あつてはならない物だと思ひました。

私は、原爆は二度とおきてはならないと思ひました。

広島に行つて学んだこと



寺田西小学校 6年

小原 萌

私は、「平和のための小中学生広島派遣団」に参加しました。バスから見る広島は、木々がたくさん生い茂つて高層ビルが並んでいました。これが七十五年は木も草も生えないだろうといわれていた広島の街なのか。

しかし、その後平和記念資料館に行つて六十九年前の広島の実をつきつけられました。原爆が落とされた時の八時十五分で止まっている腕時計や伸一ちゃんの三輪車、真っ黒にこげた弁当箱があり、戦争のおそろしさがひしひしと伝わってきました。

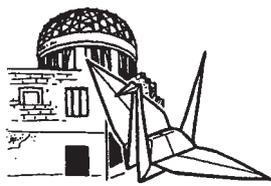
次に戦争を体験された語り部さんの講話を聞きました。語り部さんにとってその体験はつらく、思い出したくもない話だと思いません。しかし、戦争のおそろしさ、もうこんなことは二度とおこらないでほしい、そしてこの話を後世に伝えていってほしい。と、その一心でくわしく、正確に感じたことや原子爆弾について、一生けん命話して下さりました。その話の中で、みんな、ひどい火傷を負いながらも水がほしくて川へ行つたとおっしゃっていました。その時は、わけも分からぬまま、水がほしい、生きたいと思つていても、水を飲む力さえもなくなって息をひきとつていった人たちのことを考えると、むねがしめつけられました。ああこれが同じ人

間のやることなのか。これが戦争ということなんだ。と、私は思いました。

二日目。原爆の子の像に折り鶴を捧げました。折り鶴をかざるための部屋は折り鶴と折り鶴を並べて作った絵でうまっています。

次に原爆ドームを見学しました。原爆ドームは思っていたより小さく、しかし原爆のひさんさを物語っていました。

そして爆心地にも行きました。六十九年前の八月六日。この場所の真上に原子爆弾が投下された。すさまじい光と爆風と百万度をこえる熱線。心臓がドクドクと速くなつていくのが分かる。戦争は二度とおこつてはいけない。核兵器なんていらない。でもどれだけでもやんだつて六十九年前の出来事がなくなくなるわけじゃない。だから、同じ過ちをしてはいけない。これから私たちの世代がつくっていく社会は、戦争のない今ある平和を引きついでいかなければならないと思う。そのため、まず自分たちができることをやっていきたいと私は考えました。今回学んだことを身近な人から伝えていくこと。命を大切にすること。今幸せに生活できていること、家族や友だちに感謝することです。この三つのことを「広島派遣団」に参加して強く感じました。



日本は何もしていないのに…



寺田西小学校 6年

近 藤 柾

ぼくは、原爆を落とされた広島に行きました。ぼくは、核兵器がどんな大きさなのか、どんな強さなのか、そういうことは何もわかっていませんでした。なのでどんな恐ろしさかわかっていませんでした。広島平和記念資料館で核兵器の強さがわかりました。広島にはなにもない、あったとしても鉄やなになのかわからなくなつたものなどでした。資料館には中身が黒こげになつたお弁当、八時十五分とまつた時計、黒い雨のあつたかべなどがありました。すべてぼくに恐ろしさを教えてくれました。

地下に行き本当に原爆にあつた細川さんに話を聞きました。細川さんは17才でした。爆心地から一、三八キロメートルのところにおいて、原爆が落とされてから細川さんはやけどはなく、血がだらだら出ていた。だから細川さんはいた場所がよかつたんだと思います。細川さんの妹はとても近いところでなくなつてしまい、悲しく感じました。

日本は何もしていないのに、アメリカが実験のために広島に落とすのはもう、やめてほしいと思えました。実験で何万人もの人を殺してしまうのは大きな殺人だとぼくは思いません。

広島派遣団に参加して、ぼくは、原爆の恐ろしさを知りま



した。どんな物がのこっていたのか、爆心地はどこだったのか、原爆落とされてからはどうだったのか、よくわかりとても勉強になりました。

広島派遣団に参加して



寺田南小学校 6年

上 地 里 奈

私は、今まで広島に原爆が落とされたことは知っていましたが、くわしいことは何も知りませんでした。

今回、広島に行つて戦争や原爆がとてもおそろしく、悲惨なものだと改めて感じました。

広島に着いてすぐに、平和資料館に行きました。

そこでは、被爆した物や写真がたくさん展示されています。

黒こげになった弁当箱や三輪車、服、時計、ぐにゃぐにゃに溶けて曲がったびん：その当時のまま残っていて信じられない光景に私は胸が痛くなり、言葉を失いました。

なぜ、戦争がおきたのか、なぜ原爆が広島と長崎に落とされることになってしまったのか、なぜこんなことに：という思いが頭の中でぐるぐる回っていました。

その後、被爆体験された方の話を聞いて、爆心地よりかなりはなれた場所でも大きな被害があったことなどを知り、さらに原爆がおそろしいと思いました。

二日目は、慰霊碑に花を、原爆の子の像におりづるを捧げました。「二度と戦争がおきないでほしい。」と強く思い、お祈りしました。

次に、爆心地より少しはなれた所にある原爆ドームを見ま

した。ぼろぼろにくずれている姿を見て、爆風の怖さが分かりますが、周りの全ての建物がなくなった中、よく残ったなあと思いました。

最後は、広島焼き体験をしました。いつも作っているお好み焼きの作り方とはちがって、よい経験ができました。家でも作ってみようと思います。

広島派遣団に参加して「平和」への思いが変わった気がします。

今、争いがなく毎日暮らしていただけること、不自由なく食べ物や飲み物が口にできること、学校へ通えること、そして大切な家族と一緒に居られること。それは、当たり前のことと思いついていましたが、今回いつもと変わらない当たり前の生活を送れることこそが平和で幸せなのだとつくづく感じました。

被爆体験の話をして下さった方は、本当は思い出したくもない、話したくもないことをこれからの世の中のために私達に話して下さいました。貴重なお話を聞いた私は、これから少しでも多くの人に話し、戦争や原爆が人々を苦しめて、大切な物を全てうばうおそろしいもので、何の解決にもならず誰も幸せにはならないことをみんなで共感したいです。

終戦から年月がたつにつれて、戦争のことを知る人が少なくななり、忘れてしまいうようになります。戦争を知らない私達ですが、決して二度と同じ悲惨なことがおきないように、「平和」な世の中でありたい気持ちを強く持ち続けたいです。

戦争について学んで



深谷小学校 6年

小 谷 頼 也

ぼくは、広島派遣団に参加してたくさんの事を学んできました。

まず初めに、平和記念資料館に行きました。そこで一番印象に残ったのが、被爆した人のおかげが石段に残っていたことでした。その石段を見た時に、弱っている人が助けも呼べずにいつしゅんで亡くなったんだなと思いました。他にも悲惨な姿で亡くなっている人もいるから、もう二度と戦争が起こってほしくありません。

講話では、主に原子爆弾の威力や被害の大きさについて学びました。原爆ドームで働いていた人は全員即死した事や、ほとんどのものが形なきものになってしまった事を聞きました。原爆が広島に落とされたのは知っていたけど、くわしい事は知らなかったので講話を聞いてすごく勉強になりました。原爆によって原爆ドームが1/3になった事を聞いて、とてもびっくりしました。

一つの爆弾によって多くの人々が亡くなったと思うと、原子爆弾のおそろしさがよく分かりました。

年が経つにつれて、被爆講話をして下さる方が減っていき、やがていなくなるので、被爆体験をした方から直接話を聞いたぼくたちが、戦争のおそろしさや悲惨さを後世に伝えてい

かなければならないと思いました。

二日目の昼食で好み焼きを自分で作って食べました。最高においしかったです。京都の好み焼きとは焼き方が違います。京都の好み焼きは生地に野菜などを混ぜて焼くけど、広島のお好み焼きはうすくのばした生地の上にどんどん野菜をのせていく焼き方でびっくりしました。

広島派遣団に参加でき、いろいろと勉強できて良かったです。

広島は、原子爆弾が落とされて焼け野原になったとは思えないほど、緑が豊かで、建て物も建っていて、花もきれいに咲いていて、とても美しい町でした。これからも、平和の象徴として美しい町であり続けてほしいです。



広島へ行って学んだこと



深谷小学校 6年

大矢 紗羽

広島派遣団として、原爆について学んだこと。それは、私達が思っているよりも、はるかに恐ろしく、悲しい出来事だったということですよ。

まず初めに平和記念資料館へ行きました。そこには、なぜ原爆が落とされたのか、原子爆弾はどのようなものなのか、どんな被害があったのかなどたくさんのが書いてありました。そして、亡くなった人の服などの遺留品がかざられていました。

みなさんが知っている通り、原爆は、昭和二十年（一九四五年）八月六日午前八時十五分に広島に落とされました。その八時十五分で止まっている時計も見ました。

見ていった中で一番ショックだったのは、原爆によって受けた被害の数々です。

例えば、原爆白内障。両眼の中の色が、たまごのきみみみたいな色をしています。他にも全身やけどや、皮下出血による紫斑、歯茎からの出血など、たくさん被害が出ていました。これらの写真を見て

「うわっ。やばいな。」
と心の中で思いました。

どんどん中を進んで行くと、折り鶴がおかれたケースがあ

りました。みなさんは折り鶴が平和の象徴なのは知っていますか。なぜ平和の象徴になったのか、それはある一人の少女の話がもとになっています。

少女は禎子さんといい、二才の時に被爆しました。元気な女の子でしたが、十年後、白血病で亡くなりました。その時、「千羽、鶴を作ると願いがかなう。」ということ信じ、折り鶴を作り続けていきました。そのため、平和の象徴が折り鶴になったのです。

平和記念資料館をまわった後、語りべといって、被爆時のことを話してくれる細川さんのお話を聞きました。細川さんは、17才の時に、被爆したそうです。細川さんには、妹がいました。しかし、妹さんは亡くなったそうです。しかも妹さんだけでなく、妹さんが通っていた学校の人も全員亡くなったそうです。細川さんのお母さんは、妹さんの制服を持って泣いていたそうです。

私はこれらを見たり聞いたりして、改めて思ったことがあります。それは、「戦争は絶対に行ってはいけない。戦争は、命を、大切な人を失うだけだから。」ということですよ。戦争で大切な家族や友達などを失いたくありません。私は、命が大切だと思います。だから二度と絶対に原爆や戦争をしてほしくないとします。そして、世界が平和になって、みんなが楽しくくらせる場所にできたらと心から思います。

広島派遣団に参加して



古川小学校 6年

澤田 理沙

私が広島派遣団に応募した理由は、一つは両親にすすめられたからです。

二つ目は、自分が目の前で戦争、そして原爆のおそろしさについて知ってみたいと思ったからです。

広島に到着し、昼食をとってから平和記念資料館を見学しました。館内に入ると、急に空気が変わりました。その理由は、こんなことが日本にあったのだろうかというほど、きょうふを感じさせられたからです。全身大火傷を負った人の写真、ガラスがささった背中、白血病で苦しむたっくさんの人の写真など、今の日本ではありえないものばかりでした。そしてバスの中で、バスガイドさんはだしのゲンを読んでもくれました。そこで原爆は、めちゃくちゃにするということがよく分かりました。

次に、被爆者の話を聞きました。語り部さんは当時十七才でした。その時、八時十五分に原爆が落ちて、妹を亡くしたそうです。そしてみんなが川に入って水を求めていたそうです。そして戦争は二度と起きてはいけないものだと思うとうふうに言ってくれました。

旅館に着いて、その日の夜みんなで千羽づるをつなげました。そのつなげるリボンに私たちの班は、「世界の平和を広

島から願う」と書きました。

二日目は、慰霊碑に行ってお花を捧げた後、広島二中原爆慰霊碑に行きました。その人たちは、すごく大変な思いをされたんだということが分かって、今の生活ができていることがすごく幸せだと思いました。

そして次に、原爆の子の像に行つてつるを捧げました。子どもは何もしていないのに、たっくさんの子どもが亡くなつてすごくかわいそうで、悲しかったです。その後も、原爆ドーム、爆心地、追悼平和祈念館に行つて、あらためて戦争のこわさ、かこくさ、苦しみがどんどんおしよせてきて、心がすごく苦しくなりました。

これからは、このことを生かし平和についてもつと学び、外国もそういう場所があると聞いたので、この世界を平和にし、次の世代の人たちにも伝えていつて命の大切さをしっかりと守つていきたいです。

そして忘れてはいけませんが、これでも知っている部分が少ないといけないことです。だからもつと知つてもつと伝えていかなければいけない、そう思いました。



広島派遣団に行つて



古川小学校 6年

瀧口 凜

私が、広島派遣に参加した理由は、戦争や原爆のおそろしさをしっかり知っておきたかったからです。

7月31日～8月1日まで広島に派遣団として行きました。広島に着いたらまず、旅館のような場所で昼食をとりました。その後、平和記念資料館を見学しました。資料館では、音声ガイドを借りました。資料館には、原爆のおそろしさがそのまま表れているような、おそろしい物がたくさんありました。例えば、8時15分で止まったままのこげているうで時計や、ボロボロになった制服、全身やけどの人々の写真など、本当に悲惨な光景でした。とくに、皮ふがはがれ落ちて苦しんでいる人や全身やけどの人々の写真はこの世のものだと思えないほど悲惨で、目をそむけたくなりました。焼け野原になっている広島姿を見ると、今の美しい自然がたくさんある町なみが信じられませんでした。資料館を見終わり、みんなが集まると、資料館の地下展示を見て、体験者の方の講話を聞きました。体験者の方は、17才の時に被爆にあわれたそうです。話を聞いていると戦争や原爆は、いいことが一つもなく、本当に悲惨だということが改めてよく分かりました。体験者の方は原爆で私達と同じ年ぐらいの妹を亡くされたと聞いて、私は、おどろきと、原爆のおそろしさという感情が同

時にわいてきました。そしてとても悲しくショックを受けました。体験者の方は、こうして話していると、記おくがよみがえってくるとおっしゃっていました。その過去は、けつして思い出したいはずなのに、こうして伝えて下さることに感謝して、これからは、私達がしっかり伝えていこうと思えました。一日目学んだ事は、原爆や戦争は、とても悲惨で、罪のない人の命を簡単にうばってしまうという事。それと人の命の大切さを学びました。講話を聞いた後は、「世羅別館」という自分達とまる旅館に行きました。そこは、とてもキレイでした。まず部屋に行つて、部屋班ごとにお風呂に入りました。つかれていたのがよかったです。それから少し間をおいて、夕食をとりました。ごうかでもとてもおいしかったです。そしてその後、一日のまとめのミーティングをしました。まず1人ずつ感想を言つて、その後つるをつなげました。ミーティングが終わつてしばらくしたら、ねました。

2日目は、まず、平和記念公園に行つて、慰霊碑に花を捧げた後、原爆の子の像に行つて千羽づるを捧げました。そこにはたくさんさんの千羽づるがあつてキレイでした。その後、原爆ドームに行きました。原爆ドームは、ドームの所の骨組みがむき出しで、原爆のおそろしさが分かりました。その後、広島風お好み焼きを作りました。めんがパリパリしてとてもおいしかったです。

この2日間で、広島のが、たくさん学べて本当によかったです。

原爆のおそろしさ



古川小学校 6年

瀧口 華

二度と使つてはいけな原爆を落とされた広島は、本当に、あのおそろしいいっしゅんで何万人もの命をうばう原爆が落ちたとは、思えないほど自然や高いビルが建ちならんでいました。最初は、あんまり知らなかったけど、資料館に行きました。資料館には、原爆で死んだ人や、かげなどが残ったものや死んだ人のもけいなどがありました。私はそれを見て、なんてかわいそうなんだろう、なんでこんなものを使つたんだ、というかなしい気持ちでいっばいでした。みんなはそんなものをあんまり見てなかったけど、私はちゃんと見ていました。

私が資料館で心に残ったことは2つあります。1つ目は、8時15分で止まった時計と原爆ドームのもけいです。いっしゅんでこんな風になったということがよく分かりました。2つ目は、生きたまま死んだ人たちのもけいや、熱でやけどをしてひどいけがをした人のもけいです。それを見ると、かわいそうな気持ちと原爆を使つた人へのいかりでいっばいでした。

でもじっさいに被爆した人は、原爆のおそろしさを知らない私たちの想像以上につらい思いをしたんだなあという気持ちになりました。私は資料館からでた時は、ざんこくすぎて頭の中がなにも考えられないほど真っ白で、声もでませんでした。

次に地下展示を見た後、被爆した人の講話を聞きました。私は話してくれる人の顔を見て、なるべく思い出したくはないんだろうなと思いました。その話を聞いている中で、妹を失ったことを話していた時、私はむねが痛くて泣きそうになりましたが、むねが痛かったり泣きそうになるのは妹を失った人の方も同じだと思えます。でも私たちのために、いっしゅんうけんめい話してくださいました。私は感謝の気持ちでいっばいでした。1日目は原爆のおそろしさや死んだ人のねがいを知って、今私達が元気にくらしているのもあたりまえだと思う、それも幸せの一つだと思いたいと思いましたが、そういうみじかなものも幸せだということが、資料館などを見てよく分かりました。

2日目は、原爆死没者慰霊碑に行つて写真をとつてお花をささげました。私はギュツと目をつむりながら「もう二度とこんなことがおこらないように」と心の中で何度もくりかえしました。原爆死没者の所にはいろいろな物がおいてありました。その後、原爆の子の像に折りづるをささげに行きました。さだ子ちゃんはかわいそうだなと思いました。爆心地は今病院になっていて、当時の写真はすぐかっただです。そこから少しはなれた所に原爆ドームがありました。その近くに行つてみると、まどは全部ぶつこわれていて3分の1ぐらいの大きさになっていました。がれきはそのまま残っていて、その中で働いていた人はいっしゅんで死んでしまつて、黒い雨がふっていました。

この2日間で学んだ、原爆のおそろしさ、人の命の大切さを伝えていきたいと思えます。

広島に行つて



古川小学校 6年

中 石 望 愛

私は広島派遣団に参加しようと思い、もうしこみをしました。広島の話は、ほとんど知りませんでした。戦争で広島に原爆が落ちた事と、テレビで見た事がある原爆ドームくらいしか知りませんでした。戦争がどんな事かもわからないし、原爆がどんなものかもあまりわからなかったので、広島派遣団で色々たくさんのお話を学べたらいいなと思って参加しました。

平和記念資料館に行きました。平和記念資料館では、八月六日八時十五分で止まった時計などを見ました。広島に原爆が落とされた時は、広島は、晴天で雲一つもない青空という事を聞きました。八時十五分に広島の街は、いっしゅんにして焼け野原になった事を聞きました。本当に戦争はこわいと思いました。原爆はすぐくおそろしいものだと思います。もし、今、そんな事になったらって考えると、こわくてしかたがありません。絶対に二度と、こんなことはおきない、平和な国にしたいです。

旅館に着いて、みんなの千羽づるをたばねました。夜の部屋、いつも一緒に友達と一緒に部屋だったので、お昼こわかったことを少し忘れて、楽しく過ごせました。

二日目は、平和記念公園に行きました。平和記念公園でお

花をささげました。もう絶対に戦争がおきませんようにとお祈りしました。広島二中原爆慰霊碑にも行きました。その次に原爆の子の像に、折りづるをささげました。原爆の子の像の次には、楽しみにしていた原爆ドームを見に行きました。そして、原爆ドームから歩いて爆心地に行きました。爆心地の次に、追悼平和祈念館に行きました。追悼平和祈念館では亡くなった方々の数だけのタイルがある事を、バスのガイドさんから聞きました。原爆で、亡くなった方々は、いっぱいいることがわかると、いっぱいタイルがうまっていて、とても悲しい気持ちになりました。

お昼には、自分達でつくった、広島風お好み焼きを体験して食べました。広島風お好み焼きをつくるのは、とてもむずかしかったです。とてもおいしかったですのでよかったですと思いました。

広島に行つて分かった事は、戦争や原爆のおそろしさです。原爆はいっぺんに数万人の人を殺してしまうし、生きのびていても病気になるたり苦しんだりするし、草や木、自然もこわしていきます。今でも戦争、原爆で苦しんでいる人はたくさんいます。

広島派遣団で学んだ事を忘れず、一人一人が命の大切さを考え、平和に暮らせる日本にしていきたいと思いました。



広島派遣団に参加して



古川小学校 6年

齊藤 愛華

私は、友達に誘われ、この広島派遣団に参加しました。城陽市から五時間かけて広島についた第一印象は、原爆が落ちたとは思えないくらい、緑が多くて、高層ビルも多い都会的な印象でした。

私達はまず「平和記念資料館」に行きました。ここでは、私の想像をはるかに超える戦争のおそろしさを知る時間になりました。一九四五年八月六日八時十五分で止まっている時計、焼けこげた女学生の夏服、当時三歳十一カ月だった鎌谷伸一くんの黒こげになった三輪車、中学一年生だった折免滋くんの黒こげになったお弁当箱、一番衝撃的だったのは、腕の皮膚が焼けてたれさがっていて、髪はボサボサの三人の親子の模型でした。とても胸が痛くなりました。展示してある実物を見てみると、被爆体験者の方のお話も今まで以上に耳に入ってきました。一瞬にして全てのものをうばってしまう原爆のおそろしさを体中で感じました。

二日目に見学した「原爆死没者慰霊碑」では、たくさんのお花が飾られていました。「原爆の子の像」では、私達が折っていた鶴をささげました。二歳で被爆した佐々木禎子さんは、リレー選手になるくらい元気な女の子だったのに、六年生の秋頃から体調を崩して白血病になりました。折り鶴を千

羽折れば病気が治ると聞いた禎子さんは、薬の包み紙などで、鶴を折り続けたのに、その願いもかなわず、十二歳で亡くなってしまいました。禎子さんの同級生達を中心となって、原爆の子の像がつくられたそうです。この像の周りには、すごい数の折り鶴がたくさんたくさんささげられていました。慰霊の思いと平和を願う思いの強さを感じました。爆心地には、今、病院がありました。その後、原爆ドームへ行つたのですが、爆心地から百六十メートルですごく近く感じました。世界遺産として、保存されているドームは、思っているより小さく感じましたが、その姿は核兵器のおそろしさ、悲しみ、苦しみを伝えながら平和に過ごしている今を感謝することを無言で伝えてくれているようでした。

今回、この広島派遣団に参加することができて、本当に貴重な体験ができました。この時代を生きた人達の思いを忘れず、今の平和な生活がどれくらい幸せなことかを感謝して、これからの一日一日を大切にしたいと思いました。今の今まで語り伝え、願い続けて下さった方々のおかげで、今の日本の幸せがあることを胸に、世界中の国から戦争がなくなつて、平和な世界になることをこれからも折り続けたいと思います。



戦争のおそろしさを知って学んだこと



古川小学校 6年

山元 沙耶香

私が、広島派遣団に参加した理由は、二つあります。

一つ目は、友達にさそわれたからです。

二つ目は、原爆ドームに、興味があったからです。

一日目は、平和記念資料館に行きました。中に入ったら、8時15分に止まった時計や、真っ黒にこげた、しげるくんのお弁当箱が展示してありました。ほかに、こげた服や、体のひふ、原爆が落ちる前の模型から、原爆後の模型などがありました。そこから、渡りろう下を歩いていたら、原爆の子の像と原爆ドームが見えました。原爆ドームの丸い部分だけが残っていました。

ドームの無残な姿は、今まで見たことのない光景で、よくここまで広島がきれいいで平和な街へと生まれ変わったなあと思えました。

次は、会館で86才のおじいちゃんから当時の話を聞きました。妹さんが目に見えない放射線で最期をとげられた話にはとても心が痛みました。家族という最愛の妹さんを一瞬にして失ってしまったわ、このような形で家族と会えなくなってしまう人は、どれだけののだろうかとおどろくばかりでした。

この話を聞いて、私は家族であるお父さんお母さんお姉ちゃん、お友達がいるだけで、とても幸せなんだなあと思

ました。

二日目は慰霊碑に、折り鶴とお花を捧げに行きました。全国から沢山の折り鶴がそこにはありました。こんなに平和を思う人々が訪れているのだなあと思いました。今はビルや街が立ち並び、当時を想像できないほどきれいな街に整備されています。私は今回派遣団で広島に来ることができて良かったです。

いつまでも平和で戦争が二度と起こらないよう祈りながら平和の勉強ができたことに感謝しています。



広島に行つて…



古川小学校 6年

中西凜花

私は、7月31日、8月1日の1泊2日で、広島派遣団に参加して広島に行きました。

私が広島派遣団に参加した理由は、原爆ドームにすごく興味があったからです。

最初に見学したのは、平和記念資料館でした。こげたお弁当箱や、サドルがおれた三輪車、8時15分だとまった時計など、色々展示されていました。その中で、一番印象に残ったのは、ひふがただれていてかみの毛はチリチリで服はボロボロ…当時の人達を再現した「ろう人形」です。私はその「ろう人形」を見ていて、「助けて〜」「水をくれ〜。」というのが聞こえてきた気がして、すごく悲しくなりました。

次に、資料館地下展示場を見学しました。資料館地下展示場には、本がたくさんありました。わたしは、ちよつと歩きつかれたので友達といっしょに休けいしていました。

1日目最後の、被爆体験者の方のお話では、びつくりするような事がたくさんありました。私は広島に行った事がなくて、広島に着いた時、ほんとにこの町で戦争があったのか…と思うほどきれいな町で、緑も豊か、立派な建物が立ちならんでいました。でも被爆体験者の方のお話を聞いて、このきれいな町でほんとに戦争があったんだなあと思いました。

その後、旅館で夕食を食べて、平和が続きますようにと、みんなで折りづるにメッセージを書きました。

2日目は、最初に慰霊碑の所で花をささげたり、原爆ドームを見に行ったり、折りづるをささげたりしました。

2日目最後の見学は、追悼平和祈念館でした。8時15分をあらわす物や、当時亡くなられた人の数をあらわしたタイルなど、色々ありました。その後は、自由にパソコンを使って、被爆体験者の方の動画などを見たりして最後見学が終わりしました。

次に、広島風お好み焼体験ができる所に行つて、広島風お好み焼を作りました。楽しかったし、とってもおいしかったです。

これで、広島の勉強は終わりました。私は、戦争のおそろしさ、核兵器のおそろしさなどを勉強できて、ほんとによかったと思つています。これからは、戦争はぜつたいにおこらないでほしい、平和がずっとつづいてほしい。だから、今回私達が学んだ事を、これから、色々な人につたえていきたいと思ひます。

この平和な毎日がこれからもずっとつづきますように!!



広島派遣団に入って



古川小学校 6年

吉川 和泉

わたしは、広島派遣団に入ってはじめては、きんちようしたけど、どんどんなれてきて、友達もできて、うれしかったし、楽しかったです。広島に着いて昼食を食べて、平和記念資料館に行って一番いんしように残ったのは、服がとけて人が立っている模型のところでした。それは、夢にでてきそうでした。次にいんしように残ったのは、人のかみのけです。三回くしでとくだけで、あんなにかみのけがとれるなんて思ってもいせんでした。資料館を一時間ぐらい見ていました。資料館地下展示場に入って、はだしのゲンをかえでちゃんとりんかちゃんわたしで読みました。読んでみたら思ったよりかわかったです。こんな話が本当だなんて信じられませんでした。次は、細川浩史さんという広島の被爆した時の経けん者にお話を聞きました。細川さんは、妹がいました。妹さんは、当時十三才でした。でも、爆発した近くにおいて、ガラスがきょうきになってささったり大やけどしたりしました。でも、そくしはまぬがれました。妹さんを看病したのは、植田初枝さんという女の人です。年れいは当時27才です。とても若かったです。妹さんとても若いのに、まもなくなくなりました。こんなつらい話を話してくれて、気持ちがすごく伝わってきました。

二日目は、慰霊碑に行ってみんなで花をささげました。ほかの人たちもみんな手を合わせていました。あと、花がいっぱいありました。次に、三五二人がなくなつた広島二中慰霊碑に手を合わせました。まだ若いのかわいそうだなと思いましたが。次に見たのは、原爆の子の像です。つるがいつぱいかざつてありました。いろいろな県からつるが送られています。みんなでつるをかけました。次に見たのは、原爆ドームです。テレビでしか見たことがなかったので初めて見るとき、ちよつとこわいなと思えました。原爆ドームは、がれきばかりありました。もうそんなことはおきてほしくないと思えました。次に見たのは、爆心地です。そこに立つたときはとつてもとつてもこわかったです。こんなドキドキ感は、はじめてです。とてもこわかったです。今では島外科内科になつていました。近くにいた人は、とてもかわいそうだなとそこに立つて思いました。次に行ったのは、追悼平和祈念館です。とてもすこかったです。次に行ったところで、広島のお好み焼を作つて食べました。けっこうおいしかったです。

わたしは二日間広島のことを学び思ったことは、とてもかわいそうということと、なんでこんなことがおきたの？ということです。わたしは、広島派遣団に入っているいろんなことを学びました。こんなことがおきなければ良かったなと思えました。

原爆



古川小学校 6年

谷川 楓

私は、広島派遣団に参加しました。

一日目に、平和記念資料館に行きました。

被爆する前の広島県のもけいがありました。みどりも多く、家もキレイだけど、原爆の落ちた後は、みどりもなく家もほとんどなくボロボロでした。もけいを見るだけでどれだけざんこくだったか、大変だったかがすぐわかりました。

小学校のもけいもありました。小学校のまどのとびらは、まがつていました。

やけどなどのけがをした人がちりようしている写真があり、放射線でかみのけがぬけている人の写真もありました。すごくいたそうでした。

原爆ドームのもけいは、かべもはがれていて、鉄骨が見えるほどなにもかもがとれていました。

日本は、戦争で三百万人以上の生命をうしなつたと書いてありました。

広島は、すごく大変だったと思いました。びんがボロボロになるほどの爆風があったのはすごくこわいと思つたし、もし自分がいたら動けてないし、自分で動いた人は、すごいなあと思いました。

被爆した人の人形は、ひふがただれていながらも、ひつし

でにげてるように私は見えました。次に時計の写真が見えました。午前8時15分にとまっていた写真があり、その横には弁当箱や三輪車がありました。弁当箱の中身はかたまつて黒くなつていて、三輪車はボロボロになっていました。

サダコさんの折りづるがかざられていました。でもつるがちよつとやけている物もありました。被爆者は、葉でなおそうとしている人もいたけど、なおらなくて死んでいく人がいました。なおす方法は、なかったのかと思ひました。次に資料館地下展示場に行きました。小学生の人が書いた絵が展示されていきました。「はだしのゲン」という本を読みました。本の絵にも、ひふがただれていて血などをながした人や、温度が高すぎて服がとけてない人などがいました。次に原爆の体験者の細川浩史さんという人に話を聞きました。細川浩史さんの妹さんは、13才でなくなっていました。家族がなくなる事は、すごく悲しい事で細川さんは、すごく悲しかったと思います。細川さんは、ほとんど戦争の日々だったそうです。男の人は、戦場に送られていたので働く男の人がいなくなつていきました。勉強がやりたくてもできない、食べ物もおなかいっぱい食べられない毎日だったそうです。

原爆の前は、人も多かつたし広島は水のみやこだったそうです。水もおいしかったそうです。

原爆は、どうしてなつたんだろうか、もう人の命をうばつてほしくないと思いました。

平和の大切さ



南城陽中学校 1年

鬼村 歩

今から69年前8月6日8時15分に広島に原爆が落ちた。私は広島に行くまで戦争については、小学校ですこしならったぐらいで、本当のこわさを知りませんでした。

広島に着くと街並みはきれいで、焼け野原になった事など想像できないぐらいの美しさでした。でもその中に原爆ドームだけが、昔を思い出させるように立っていました。屋根は、骨組がむき出しになっていて、レンガがくずれ落ちて原爆の落ちた時の様子がそのまま残されていた。この原爆ドームを見ると、ここで沢山の人々が苦しんで亡くなられているのが想像できます。平和記念資料館では、8時15分に止まった時計を見て、想像しただけで鳥肌が立ちました。その瞬間で物がとけこわれ、たくさん命もなくなったかと思うと恐ろしい。また黒い雨あとが残った白壁や溶けた弁当箱などや、女学生の焼けこげた服などが展示されていて、私と同じ年の人が、たくさんしたい事もあったのに、原爆で一瞬で夢と未来も失ってしまった。

私達は今たくさん物があって平和に暮らしている。この幸せを願う。そして、被爆者の方の講話を聞かせてもらい、当時のことや妹のことを教えてもらいました。原爆が落ちる前、中学生達が火事から防ぐために建物をつぶしていたら、上空

で原爆が爆発して、一瞬にして中学生達の命をうばっていったそうです。私はそんな話を聞いてとても悲しいし、原爆はとても恐ろしいと思いました。

私はこのような体験を通して、戦争の恐ろしさや原爆の恐ろしさや命の大切さを、たくさんの人々に伝えていきたいです。戦争や原爆の恐ろしさなどが分かったのは、広島派遣団に参加できたからこそ、分かったんだと思います。また、このような機会があったら、参加したいです。



広島派遣団に参加して



南城陽中学校 1年

大西 茉那

私は、無料やし、戦争や原爆についていろいろ知れる、いい機会だと思って、この広島派遣団に参加しました。

今の広島は、原爆が落とされたとは思えないほどの、緑がたくさんあり、ビルがたちならんでいました。

私たちは、最初に、平和記念資料館を見学しました。そこには、8時15分でとまった時計、原子爆だんの模型など、火の中を、親子がひさんな姿で歩いているような模型もありました。私は、なんで、つみのない人たちを殺すのだろうと思いました。次に、被爆を体験した人の話を聞きました。爆風で窓ガラスがわれて、ガラスのはへんが人にささったり、つぶれた家の下じきになって死んでいく人のことなどを聞きました。1つの爆だんで、たくさんの人の命をうばうことがわかりました。

二日目は、最初、慰霊碑に花をささげました。次に、原爆の子の像を見に行きました。原爆の子の像は、禎子さんという、2才で被爆し、12才で白血病で入院、つるを千羽おれば病気が治ると言われ、葉のつつみ紙などで、つるをおりつづけたが、その願いも叶わぬまま亡くなり、それを聞いた同級生たちが中心になって、禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊し、平和を守るための記念に各地

から集められた募金によってつくられたものです。原爆の子の像に、千羽づるをささげました。その後、爆心地に行ったあと、原爆ドームに行きました。原爆ドームは、壁がくずれ、窓ガラスは1枚もついていませんでした。今にもつぶれそうでした。

私は、もう二度とこのようなおそろしいことが起こらないようにしてほしいです。そして、戦争がなくなり、人々が平和にくらせる様な世界になってほしいです。



戦争について



南城陽中学校 1年

小南 ゆ乃

私は、七月三十一日と八月一日の二日間、城陽市の代表として広島県に行ってきました。広島に行くまで、戦争の知識なんてほとんど無かったし、そこまで大きく考えていませんでした。しかし、原爆資料館を見たり被爆者の話を聞いていくうちに、私が考えていた戦争とは大きく異なる事だと分かりました。

私が考えていた戦争とは、ただ男の人が軍としてアメリカなどにのりこみ、戦うものだと思っていました。そして日本に住む小さい子どもなどは安全だと思っていました。しかしそれは間違っていて、戦争は何にも安全ではありませんでした。日本に残る人達は空襲におびえる日々が続きました。

そして八月六日八時十五分十七秒、広島県に原子爆弾が投下されました。その時、広島のが全てが失われてしまいました。原爆投下の決定は、米軍が決断。英国首相ウィンストン・チャーチルが同意し、米大統領ハリー・トルーマンが実行しました。原爆が放った光により火傷で重傷な人もいれば、爆発した時の爆風でガラスがわかれて、それが体にささっている人もいました。「水をくれ」「たすけて」そんな声がどこからも聞こえてきて、まるで地獄のようだったと被爆者の人に聞きました。この話を聞いて私は、この時代に生まれなくてよ

かったと思いました。

この「広島平和学習」で学んだ事はムダにしたいくないし、そのためにもこの二日間ですごしたことを、感じたことなどを未来につなげて、今後も平和な世界をきずいていってほしいです。



広島で学んだ事



東城陽中学校 1年

大森 咲季

私が広島派遣団に応募した理由は、戦争の事に前から興味があったのと、広島派遣団があるという事を学校を通して知り戦争の事を知る良い機会になると思ったからです。

平和記念資料館では、中身が真っ黒にこげたお弁当箱や抜けた髪の毛、中でも最も印象的だったのは皮膚が垂れ下がり、髪はぐしゃぐしゃでさまよい歩いている様子の蠟人形です。こんな姿の人達が原爆が投下された後に何千、何万人といたかと思うと、とても恐ろしく悲しい気持ちになりました。

被爆された方の講話を聞かせて頂いた時は、聞いていてとても悲しくなるものでした。そして、改めて戦争はもう2度と起こしてはいけないもの、という確信へと変わっていきました。戦争をしても何も変わらないと、私は思います。残るのは、恐怖や悲しみ、憎しみなど良いものは何も残らないと思います。勝つても負けてもどちらにも犠牲者は出ます。犠牲者が出ない戦争なんてものはないと思います。戦争で勝つたら、領地も富みも得られます。これでみんな幸せ、そういう訳にいくのでしょうか。戦争に行った人の身内の方々はその人が無事に帰って来てくれるのが、一番の幸せだと思います。戦争で亡くなられた方も多いと思います。その人のご家族の人達にとっては戦争はもう2度としてほしくない、その

思いが強かったと思います。

原爆ドームは、建物の側面の部分のレンガがはがれ落ち、いたる所にひびが入っていて、元の写真とは比べ物にならない程でした。元の写真を見てみると、大きくてとても丈夫そうな建物です。こんな立派な建物があると少しでくずれそうな程、もろくなるなんて原子爆弾の威力はとてつもなく強いものだったんだ、と思い知らされました。核兵器は恐ろしい物なのでなくしていく必要があります。特に放射線による人体被害には、白内障や一時的脱毛、がんなどの発生をもたらします。そのような恐ろしい凶器をこの世の中からなくす事が出来たらどんなに良いでしょうか。戦争の事を調べていくうちに改めて怖さを感じました。

戦争についての知識を増やしていくって、これから自分が出る事を少しでもできるようにしたいと思いました。そしてこの世界で少しでも多く、平和な国を増やしていきたいと強く思います。ボランティア活動にも参加して戦争への理解を他の人にも深めてもらえるようになりたいし、私の戦争を経験した事のある親せきの人にも当時の事を教えてもらい、周りの人に戦争について語れるぐらいになろうと思います。



広島派遣団に参加して



東城陽中学校 1年

井ノ内 菜央

私が広島派遣団に参加した理由は、いつも祖父母が話してくれていた戦争についてくわしく知りたかったからです。

高速道路を下りて広島町を見ると、かつて原爆が投下されたとは思えないほど、緑豊かで、高層ビルが立ち並んだきれいな町でした。ガイドさんの話では、「原爆が投下された当時は草木はなく、「これから百年は草が生えない土地になる」と言われていたのに、こんなにきれいな町になったんですよ。」と、言っていました。私はこの話を聞いて、もう草木は生えないと言われていたのに、六十九年たった今では、こんなにも緑が多い町になっているのにおどろきました。そして、広島町を直していった人達はすごいと思いました。一日目は「広島平和記念資料館」に行きました。そこには、「八時十五分で止まってしまった時計」「黒こげのお弁当箱」「原爆の模型」などが展示されていて、見ているだけで胸が痛くなりました。

二日目は、「広島平和公園」を見学しました。まず「原爆死没者慰霊碑」に行つて、そこで花をささげました。

次に、「原爆の子の像」に行つて、折り鶴をささげました。印象に残っているのは、像の真下の石に書かれていた、「これはぼくらの叫びですこれは私たちの祈りです世界に平和を

きずくための」という文章でした。これを見て私は、この像を作った人たちの願いが、とても伝わってきました。

次に、「原爆ドーム」へ行きました。この原爆ドームは、原爆が投下される前までは、「広島県産業奨励館」という建物だったそうです。被爆した原爆ドームのドームの部分には、鉄骨しか残らず、レンガはくずれ、らせん階段はグニヤリと曲がっていました。当時のままの痛々しい状態でした。

今、私たちは、服も、食べ物も、家も、なに不自由なく暮らしています。けれど戦争があったころは、まるで違いました。だから、幸せに生きている事を感謝し、そして、世界が平和になる事を願つて、毎日を過ごしたいと思いました。



原爆・核兵器の恐ろしさ



東城陽中学校 1年

吉村 まりな

私が広島派遣団に参加した理由は、戦争の事や原爆についてもっと知りたいと思ったからです。この体験をするまで、私は広島についてあまりよく分かっていませんでした。

広島に着いた時の最初の印象は、「思っていたよりもきれい」というものでした。原爆が投下されてから69年しか経っていないのに、ここでそんな恐ろしい事が起こったなんて想像もできないようなきれいな町並で、少し驚きました。

バスの中でも、ガイドさんが広島歴史について少し教えてくださいましたが、平和資料館では当時の様子をありのままに伝えてくれるような物がたくさん展示されていました。原爆が広島に投下された、ちょうど8時15分のところで止まった時計。真っ黒にこげてしまったお弁当箱や三輪車。人影の残った石。それら一つ一つから、その時の様子が感じ取れました。

そんな展示物がたくさん置かれている資料館で一番印象に残ったのは、禎子さんの折り鶴です。病気が治ることを信じて鶴を折り続けた禎子さんは残念ながら亡くなりましたが、心を込めて一生懸命折ったたくさんの鶴を見ていて、元気をもらえました。また同時に、たった一瞬の出来事がそのずっと後にも影響をあたえ続け、人々を苦しめていた事を知って

心が痛みました。

また、被爆者の方の体験談も、私にとって貴重な経験となりました。細川さんは、自らの体験と共に当時の様子を詳しく聞かせてくださいました。1時間程の講話でしたが、その間にたくさんのお話を聞くことができました。お話の中には、思い出すのも辛くなるような体験もありました。そんな事が実際に、私の生まれる56年前に起こったなんて受け入れがたいものでした。今現在は平和で、戦争があったことなどが身近に感じられず、意識しない人がたくさんいます。派遣団でこの体験をするまでは、私自身もそうでした。しかし、このような事が実際に起こってしまった限り、多数の人々が苦しんだ事実は変わりません。二度とこんな悲惨なことが起こらないようにするために、ある程度の知識を一人一人がもっていないければならないと思うのです。

実際に原爆の恐ろしさを体験した被爆者の方のお話を直接聞くことができた私達は、話を聞かせてくださった方の代わりとなつて、戦争のことについて語り継いでいかななくてはなりません。話を聞いた人達には、戦争で亡くなった人や亡くなった人の家族・親せきの方のことを思つて、「世界がずっと平和でありますように」と願つてほしいなと思ひました。



戦争が奪うもの



東城陽中学校 3年

梅原大那

僕は小学生の時に、「はだしのゲン」という漫画を読んだことがあります。内容は、戦争の凄惨さや、戦争後の世の中の背景を事細かに伝えるものでした。

「戦争って怖いなあ。」

そう感じたのを今でも覚えています。

それから数年後、僕は広島派遣団に参加しました。友達に誘われたこともありましたが、広島に行つて原爆の被害を目で見てみたい、という思いもありました。

当日になり、バスに乗つて広島へ向かいました。バスの中では自己紹介やビンゴゲームなどをしました。時間がたつのが早く感じました。

5時間ほどで広島に着きました。最初に行つた平和記念資料館では、8時15分そのまま止まった時計や当時の人々の服などを見ることができました。またその資料館の地下では戦争に関する本などを読むことができました。どちらも興味深い内容でした。

次に、被爆者の方からお話を伺いました。爆心地からわずか1.3kmの所で被爆し、妹を失った悲しみと衝撃はどれほどのものだったのでしょうか。何十年たった今でも当時の状況を鮮明に覚えているという事は、それほどショッキングな出来

事だったのでしよう。戦争つてとても怖いなあと改めて感じ、思いました。その後、旅館に行つて休み、1日目が終了しました。

2日目は、まず広島平和記念公園の慰霊碑に花を捧げました。もう少しで8月6日ということもあつてか、花がたくさんあり、また外国人のお客さんがたくさんいました。

次に、原爆の子の像に鶴を捧げました。ここには毎年、たくさんさんの折り鶴があるようで、実際、思ったよりもたくさんありました。

次に原爆ドームへ行きました。鉄骨がむきだしの姿は見ていてとても痛々しく、悲しくなりました。原爆の威力、怖さがとても良く分かりました。

今、僕たちは、昔と比べ、ぜいたくな暮らしをしています。平和なのが普通な世界です。戦争の怖さを知ることはできませんが、平和を願うことは続けていかなければならないなと思いました。



広島で学んだ事



東城陽中学校 3年

増子博一

ぼくが、広島派遣団に参加した理由は友達にすすめられて興味があったからです。また、広島で学んだことをみんなに伝えなかったので参加しました。

最初に平和記念館に行きました。そこには黒こげの弁当箱、8時15分で止まった時計、ひふが原爆の熱によってとけていく模型など、目をそむけたくなるパネルもありました。原爆を落とされたあとの写真と今の広島の町を見比べると、こんなにぎやかで美しい町なのに本当に原爆が落とされたのかとびっくりしました。一瞬にして7万人もの人の命がなくなりました。多くの命がなくなったことを思うと、戦争をしては絶対にダメなんだと思いました。

次に被爆者の話を聞きました。被爆者の方は、ピカドンのドンの音が聞こえないぐらいに大きな音と熱線と爆風によってふきとばされました。多くの人たちが「水、水をくれ〜」や「熱いよ〜」と言いながらさまよって、川にとびこんでいました。その場面を想像するだけで寒気がします。

次の日、平和記念公園に行きました。そこで最初に原爆死没者慰霊碑に花をささげました。そのあと原爆の子の像に行つて、みんなで束ねた折りづるをささげました。次に原爆ドームの所へ行きました。石がくずれていて原爆の恐ろしさ

を改めて実感しました。

一番印象に残っている事は「佐々木禎子さん」です。禎子さんは2才の時に被爆されました。小学校では運動神経がよくてリレーで一位を取っていました。しかし小学校6年生の秋にとつぜん白血病と診断されました。病気をなおそうとする禎子さんは、千羽づるを折りつづけ、12才という短い生涯をとげました。

今のぼくたちの生活は幸せです。この感謝の気持ちと戦争と原爆の恐ろしさを伝えていきたいと思っています。



編集・発行 城陽市 市長公室 秘書広報課

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16・17

電 話 0774-56-4050

FAX 0774-52-1175

U R L <http://www.city.joyo.kyoto.jp/>

E-mail heiwa@city.joyo.lg.jp



再生紙を使用しています。